

(2013年度)

## 4 世界史問題 (60分)

(この問題冊子は26ページ，4問である。)

### 受験についての注意

1. 監督の指示があるまで，問題冊子を開いてはならない。
2. 試験開始前に，監督から指示があったら，解答用紙の右上の番号が自分の受験番号と一致することを確認し，所定の欄に氏名を記入すること。次に，解答用紙の右側のミシン目にそって，きれいに折り曲げてから，受験番号と氏名が書かれた切片を切り離し，机上に置くこと。
3. 監督から試験開始の指示があったら，この問題冊子が，上に記したページ数どおりそろっていることを確かめること。
4. 筆記具は，HかFかHBの黒鉛筆またはシャープペンシルに限る。万年筆・ボールペンなどを使用してはならない。時計に組み込まれたアラーム機能，計算機能，辞書機能などを使用してはならない。
5. 解答は解答用紙の各問の選択肢の中から正解と思うものを選んで，そのマーク欄をぬりつぶすこと。その他の部分には何も書いてはならない。
6. マークをするとき，マーク欄からはみ出したり，白い部分を残したり，文字や番号，○や×をつけてはならない。
7. 訂正する場合は，消しゴムでていねいに消すこと。消しきずはきれいに取り除くこと。
8. 解答用紙を折り曲げたり，破ったりしてはならない。
9. 試験時間中に退場してはならない。
10. 解答用紙を持ち帰ってはならない。
11. 問題冊子は必ず持ち帰ること。

1 次の文章は、ある歴史小説作家と彼を取材に来た新聞記者との間の会話である。この文章を読んで、以下の問(1～16)に答えなさい。解答は、選択肢(a～e)からもっとも適切なものを1つ選びなさい。

記者：先生、このたびは受賞おめでとうございます。

作家：(満足そうに)うむ、ありがとう。

記者：しかし、先生は、すごい強運ですね。アラブの独裁者をモデルにした小説なんて、日本では売れないと思っていました。そうしたら、ちょうどオレンジ革命が起きて、ものすごく中東が注目されましたからね。

作家：(苦笑しながら)君、それじゃ、ぼくが運のみで受賞したみたいじゃないか。それに、オレンジ革命は、2004年にウクライナで起きたものだよ。君が知りたいのは、2011年に( 1 )で起こったジャスミン革命のことだろう。

記者：(頭をかきながら)先生、オレンジもジャスミンもそう違いませんよ。入試とかじゃないですから、お手柔らかにお願いします。どちらの革命も、まだ教科書にもものっていないでしょう。

作家：教科書にのっていないなくても、常日頃から新聞などに接していれば誰でも知っていることは、入試で聞かれてもおかしくないと思うよ。それを範囲外の出題だと目くじらたてるのを苦々しく思っているのだよ、私は。

記者：そうですよね。やっぱり新聞が売れないといけませんよね。

作家：(また苦笑しながら)いや、そういう趣旨じゃないのだけれど。

記者：(話題を変えようと)先生の小説は、エジプトが舞台でしたね。エジプトというと、古代史に比べて、近現代史はあまり知られていないように思いますが。

作家：エジプトにおける近代国家形成のきっかけは、( 2 )年のナポレオンによるエジプト遠征といわれている。

記者：そうそう、彼はアフリカにまで遠征したのですでした。

作家：その遠征軍とたたかって活躍し、オスマン帝国からエジプト総督に任命されたのが、( 3 )だ。彼は、エジプトの近代化につとめ、オスマン帝国

からの独立をはかった。しかし、ヨーロッパ列強の干渉により、エジプトは、なかなか独立を勝ち取ることができなかった。

記者：エジプトがイギリスの事実上の保護国になったのは知っています。

作家：（ 4 ）年にウラービーが外国支配に抵抗して反乱を起こすと、イギリスが、単独出兵してこれを鎮圧したのがきっかけだったね。

記者：エジプトが、まがりなりにもイギリスの保護国の地位から脱したのは、第一次世界大戦後でしたか。

作家：そうだね。1922年にエジプト王国が成立したときだ。エジプト王国は、立憲君主制のもとで、エジプトの近代化をめざした。けれども、（ 5 ）年の第1次中東戦争でイスラエルに大敗し、経済状況も悪化するようになると、エジプト王国の国内状況は不安定なものになってしまった。

記者：そこで、自由将校団のクーデターが起きました。

作家：そして、1953年のエジプト共和国成立だね。その後、ナセルが、第2代大統領に就任すると、エジプトは、第三世界およびアラブ諸国の雄として台頭する。エジプトが、1956年にスエズ運河の国有化を断行すると、イスラエル、イギリス、フランスは、ナセル政権の打倒とスエズ運河の再支配を狙ってエジプトへ出兵した。この出兵は、軍事的には成功したものの、国際的な非難をあげてエジプトからの撤兵を余儀なくされた。この第2次中東戦争において、ナセルは、政治的勝利をおさめたといわれる。しかし、（ 6 ）年の第3次中東戦争においてイスラエルに大敗すると、ナセルは、求心力を失っていった。

記者：その後、彼は、急死してしまいました。

作家：急死は、1970年のことだね。その後、副大統領から大統領に昇格したのが、サダトだ。彼は、親米政策に外交路線を転換し、イスラエルとの融和につとめるようになる。（ 7 ）年には、アメリカの（ 8 ）大統領の仲介に基づき、エジプトとイスラエルの間で平和条約が締結された。しかし、このイスラエルとの単独和平は、アラブ人同胞に対する裏切りと受け取られ、アラブ諸国やイスラーム教徒の反感を招くことになった。

記者：そのため、サダトは、急進的イスラーム原理主義者によって暗殺されまし

た。

作家：暗殺は、1981年のことだね。その後、副大統領から大統領に昇格したのが、ムバラクだ。彼は、イスラーム原理主義勢力を厳しく弾圧し、就任と同時に非常事態宣言を発令するなど、強権的な独裁政治を長きにわたって続けた。しかし、( 9 )政権下の( 1 )で起きた民主化運動がエジプトに波及し、ついにムバラクの長期独裁政権に終止符が打たれることになった。

記者：民主化運動は、その他のアラブ諸国にも波及し、( 10 )政権下のリビアは、外部からの軍事介入を招くほどの深刻な内戦へ突入しました。

作家：(感慨深げに)国家の英雄から独裁者になり、権力におぼれた独裁者が、結局は国民に倒されるという歴史はよくあることだね。

問1 空欄(1~10)に入る語句はどれか。

- (1) a アルジェリア    b イエメン    c シリア    d チュニジア  
e ヨルダン
- (2) a 1792~1793    b 1795~1796    c 1798~1799  
d 1801~1803    e 1805~1807
- (3) a イマーム    b ムアーウィア    c ムハンマド=アリー  
d ムハンマド=アフマド    e レザー=ハーン
- (4) a 1879    b 1881    c 1883    d 1885    e 1887
- (5) a 1939~1940    b 1942~1943    c 1945~1946  
d 1948~1949    e 1951~1952
- (6) a 1961    b 1963    c 1965    d 1967    e 1969
- (7) a 1976    b 1977    c 1978    d 1979    e 1980
- (8) a カーター    b クリントン    c ジョンソン    d ニクソン  
e レーガン
- (9) a アサド    b バフレヴィー    c フセイン    d ベンアリ  
e マルコス

- (10) a カダフィ b サレハ c バシル d ブーテフリカ  
e マンデラ

問2 ナポレオンのエジプト遠征のときに発見されたものはどれか。

- a アマルナ文書 b ハンムラビ法典 c ベヒストゥーン碑文  
d パルセポリス碑文 e ロゼッタ=ストーン

問3 ナポレオンのエジプト遠征より前に起きた出来事はどれか。

- a アドリアノーブル条約の締結 b デカブリストの乱  
c ハイチ独立 d ラクスマンの根室来航  
e レザノフの長崎来航

問4 ウラービーの説明として正しいものはどれか。

- a 「エジプト人のためのエジプト」をスローガンとした。  
b 王政の廃止と共和政の樹立をスローガンとした。  
c 反シオニズムをスローガンとした。  
d 汎スラブ主義をスローガンとした。  
e もともとトルコ系傭兵であった。

問5 ウラービーの反乱がイギリス軍に鎮圧された後に起きた出来事はどれか。

- a アイグン条約の締結 b イリ条約の締結  
c サン=ステファノ条約の締結 d トルコマンチャーイ条約の締結  
e ユエ(フエ)条約の締結

問6 第1次中東戦争の説明として誤っているものはどれか。

- a アメリカ、イギリスはイスラエルを支持した。
- b イスラエルの建国宣言がきっかけになった。
- c 国際連合のアラブ・イスラエル分割案の不調を意味した。
- d フランスの委任統治領であった地域が対象になった。
- e 多数のアラブ人の難民を生んだ。

問7 第3次中東戦争においてイスラエルが勝利するのに要した期間をあげなさい。

- a 2日間      b 6日間      c 13日間      d 27日間      e 33日間

問8 ナセルの説明として正しいものはどれか。

- a アラブ諸国連盟を結成し、アラブの統一行動をめざした。
- b エジプト共和国の初代大統領を失脚させた。
- c 社会主義経済から市場主義経済への転換をはかった。
- d 周恩来首相と会談して平和五原則を発表した。
- e バグダード条約機構に参加した。

問9 サダトの説明として正しいものはどれか。

- a アラファト議長との間でパレスチナ人の暫定自治樹立で合意した。
- b イスラエルに対する強硬路線をとって、同国と開戦したこともあった。
- c 市場主義経済から社会主義経済への転換をはかった。
- d ホメイニのイラン革命に支持を表明した。
- e レバノンに侵攻し、パレスチナ解放機構(PLO)を追放した。

問10 アメリカ大統領の仲介によってエジプトとイスラエルの和平合意が成立した地はどこか。

- a エルサレム      b カイロ      c キャンプ=デーヴィッド
- d チュニス      e トリポリ

問11 アメリカ大統領の仲介によってエジプトとイスラエルの和平合意が成立したときのイスラエル首相は誰か。

- a オルメルト
- b シャロン
- c ネタニヤフ
- d ベギン
- e ラビン

問12 ムバラクの説明として誤っているものはどれか。

- a アメリカおよびイスラエルとの関係を重視する外交政策を続けた。
- b シナイ半島の返還を実現した。
- c 市場主義経済から社会主義経済への転換をはかった。
- d 第4次中東戦争ではイスラエル軍陣地への電撃作戦で戦局を有利に導いた。
- e 湾岸戦争において多国籍軍に協力した。

問13 第4次中東戦争勃発より前に起きた出来事はどれか。

- a エチオピア革命
- b 沖縄の日本復帰
- c 新国際経済秩序(NIEO)の宣言
- d 第1次石油危機
- e 毛沢東の死去

問14 1991年の中東和平会議が開催された地はどこか。

- a アナポリス
- b オスロ
- c パリ
- d マドリード
- e ロンドン

問15 ジャスミン革命が起きた国は、第二次世界大戦後にいずれの国から独立したか。

- a イギリス
- b イタリア
- c スペイン
- d フランス
- e ポルトガル

問16 リビア内戦はNATO(北大西洋条約機構)軍の空爆を招いた。これ以前にNATO軍の空爆を招いたものはどれか。

- a エルサルバドル内戦      b クルド問題      c コソヴォ問題  
d ソマリア内戦              e ルワンダ内戦

**2** 下の文章(A～E)は農業史に関するものである。この文章をよく読んで下線部(1～16)に対応する問(1～16)に答えなさい。解答は選択肢(a～d)から1つ選びなさい。正解がない場合はeをマークすること。

A 中国史上の一大変革期は春秋・戦国時代であった。その変革の基礎には農業生産力の発展があり、先進地域に基盤を置いた諸侯から覇者が現れた。しかし最終的に中国を統一したのは、後進地域から出発し、富国強兵政策によって急速に国力をつけた秦であった。

問1 下線部(1)について。

(イ) この時期の農業生産力発展を支えた要因は何であったか。

- a 長年の課題であった黄河の治水に成功し、氾濫が起きなくなったこと。  
b 木製などの農具にかわって鉄製農具が普及したこと。  
c 畜力を利用した重量有輪犁が急速に普及したこと。  
d 牛を使った耕作法が全国的に普及したこと。

(ロ) この時期に栽培されていた作物でないものはどれか。

- a トウモロコシ      b アワ      c ムギ      d イネ



問2 下線部(2)について。

(イ) 「春秋の五覇」とはされない人物は誰か。

- a 齊の桓公    b 秦の孝公    c 晋の文公    d 楚の莊王

(ロ) 「戦国の七雄」を生みだした国はどれか。

- a 齊・楚・燕・韓・魏・趙・秦    b 齊・楚・晋・韓・魏・趙・秦  
c 齊・楚・燕・韓・魏・魯・秦    d 周・楚・燕・韓・魏・趙・秦

問3 下線部(3)について。秦が前4世紀に断行した改革について述べた以下の文のうち、正しいものはどれか。

- a 李斯が法家の立場で強力な改革を進めた。  
b 穆公が強い抵抗を退けて改革を断行した。  
c 孫子が自分の著作で述べた改革方針を実践した。  
d 商鞅が変法を実行した。

B 中国の華北地域において農業生産の基礎的技術が培われたのは南北朝時代であった。この時期に華北地域の自然条件に適合した農法が体系化され、それは現存する、中国最古の農書に書かれている。

(5)

問4 下線部(4)について。この農法に関する記述のうち正しいものはどれか。

- a 華北灌漑農法とよばれ、黄河から水を引くことで生産力を上げた。  
b 三圃制農法とよばれ、春耕地・秋耕地・休耕地に区分することで生産力を上げた。  
c 華北乾地農法とよばれ、降雨を効率よく利用することで生産力を上げた。  
d 焼畑農法とよばれ、木を伐り草を刈って燃やし、その灰を肥料とすることで生産力を上げた。

問5 下線部(5)について。

(イ) この農書とは何か。

- a 『天工開物』    b 『齊民要術』    c 『農政全書』    d 『本草綱目』

(ロ) この農書の著者は誰か。

- a 賈思勰    b 徐光啓    c 宋応星    d 李時珍

C 唐代の華北地域においては、漢代のころに西方から伝来した作物が定着、普及し、これ以後、その粉を加工した食品が主食となった。<sup>(6)</sup>一方、江南地域において農業生産力が上昇するのは唐代以降である。新田開発が進み、新しいイネの品種<sup>(7)</sup>が伝来するなど、生産力が飛躍的に向上した。<sup>(8)</sup>そうした農業の様子を描いた絵画<sup>(9)</sup>も残されている。またある嗜好品<sup>(10)</sup>が一般に普及したのもこの時期であった。<sup>(11)</sup>

問6 下線部(6)について。唐代に定着、普及した作物とは何か。

- a ジャガイモ    b アワ    c コムギ    d キビ

問7 下線部(7)について。新田開発によって造成された耕地は何とよばれたか。

- a 囲田    b 占田    c 屯田    d 課田

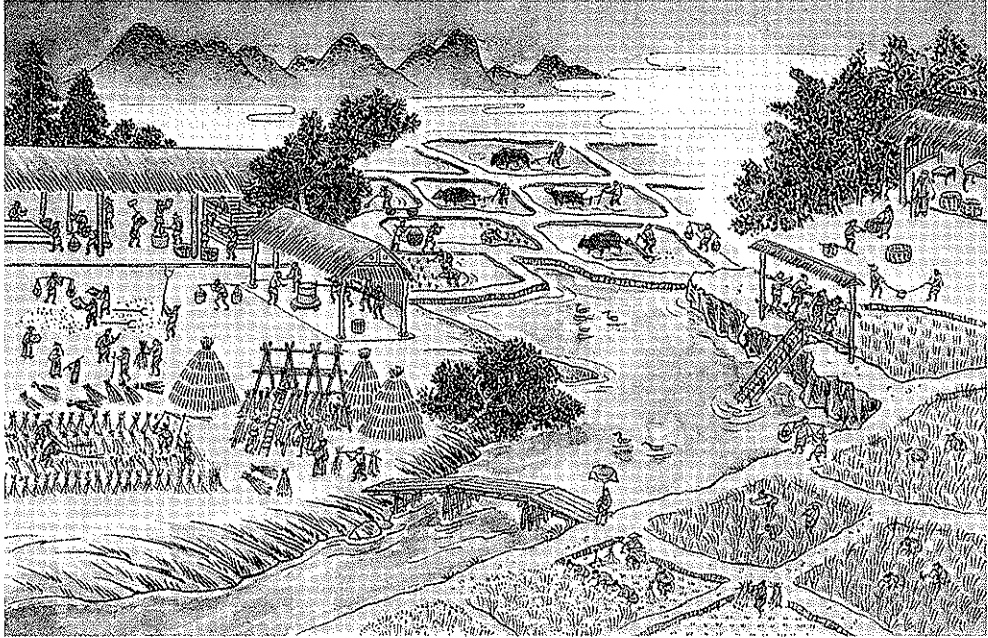
問8 下線部(8)について。この新品種は現在のどの国から伝来したものであったか。

- a マレーシア    b インドネシア    c タイ    d ベトナム

問9 下線部(9)について。この時期に流行したことわざは何か。

- a 「食は広州にあり」    b 「耕して天に至る」  
c 「蘇湖熟すれば天下足る」    d 「湖広熟すれば天下足る」

問10 下線部(10)について。下図はその代表的な作品である。この絵画に関する記述のうち誤っているものはどれか。



- a この絵は荘園の農作業の様子を描いたものである。
- b 春の耕起作業などには牛が使われている。
- c 水をくみ上げ、灌漑をおこなっている様子がわかる。
- d ここで描かれている作物はイネである。

問11 下線部(11)について。この嗜好品とは何か。

- a 煙草
- b 珈琲
- c 酒
- d 茶

D いわゆる新大陸の発見とともに多くの作物が世界に広がった。これらの作物は南北アメリカの古代文明を支えていたものであった。ヨーロッパに広がった作物では、当初は受け入れられなかったものもあったが、徐々に普及し、現在では不可欠の作物となっているものがある。

問12 下線部(12)について。

(イ) 南北アメリカの文明でないものはどれか。

- a オルメカ文明    b トルテカ文明    c テオティワカン文明  
d チャビン文明

(ロ) 各地に都市が建設されたが、南北アメリカ文明と関係ないものはどれか。

- a ティアナワコ    b マチュ=ピチュ    c ソファラ  
d テノチティトラン

問13 下線部(13)について。19世紀半ばにアイルランドで凶作が起こり、膨大な餓死者を出す原因となった作物はどれか。

- a トマト    b ジャガイモ    c サツマイモ    d トウモロコシ

E 中国の明代になって、農業では商品作物の栽培が発展した。各都市ではその原料をもとに製品化し、それが特産物として有名になった。そこで作られた製品はメキシコ銀などの外国の銀と交換され、中国国内の銀流通量が増大する結果となった。

問14 下線部(14)について。その代表的な作物品種の組み合わせは何か。

- a 菜種・亜麻    b 綿花・桑    c サトウキビ・テンサイ  
d トウモロコシ・コムギ

問15 下線部(15)について。蘇州や杭州でもっとも盛んになった産業は何か。

- a 製粉業    b 絹織物業    c 製油業    d 製糖業

問16 下線部(16)について。この銀に関する記述のうち誤っているものはどれか。

- a 16世紀以降、スペイン人が貿易に使用した。  
b ラテンアメリカ産の銀から作った銀貨であった。  
c スペイン領マニラを仲介地として中国に持ち込まれた。  
d 馬蹄形をした、秤量貨幣であった。

3

以下の文章を読んで、問(1～14)に答えなさい。

ゲルマン人の一派である西ゴート人は、376年に( 1 )を越えてローマ帝国領内<sup>(A)</sup>に侵入し、410年には( 2 )の下でローマをはじめとする諸都市を略奪した。その後、さらに西進してガリア、イベリア半島に侵入<sup>(B)</sup>し、南ガリアを拠点として建国した。しかし、507年のヴァイエの戦いでフランク王<sup>(C)</sup>の軍勢に敗れ、ガリアの領土の大半を奪われたため、その後はほぼイベリア半島のみを支配することになる。

イベリア半島の支配者となった西ゴート人は、被支配者である旧ローマ系の住民に比べると格段に数が少なく、当初は、かつてのローマ帝国のヒスパニア属州<sup>(D)</sup>統治体制と旧ローマ系官僚の力に大きく依存していた。そのため、西ゴートの王権はいまだ脆弱であった。しかも、旧ローマ帝国領の回復を狙う東ローマ皇帝<sup>(E)</sup>の軍勢が6世紀半ばにイベリア半島に上陸し、西ゴート王国の領土の南半分を制圧した。こうした状況下で即位したレオヴィギルド王は、軍事遠征に力を注ぎ、半島北西部にあった別の王国を併合するとともに、南の東ローマ軍を大きく後退させて、王国と王権を強化することに成功した。首都を半島中央部の( 3 )に定めたのもレオヴィギルドである。その息子レカレド王は、宗教的統一をはかることで王国の結束を強め、王権を盤石にするため、589年に王国旧来の信仰であるアリウス派<sup>(F)</sup>を放棄し、旧ローマ系住民が信仰するカトリックへの改宗を宣言した。これ以降の西ゴート王国は、王権とカトリック教会との強い結びつきのもとで一定の安定を保ち、独自の文化も発展させた。

8世紀に入ると、王位継承問題をきっかけに西ゴート王国は再び混乱状態に陥った。これに乗じ、当時アフリカ北岸を西進していたイスラーム勢力が711年にイベリア半島に侵攻、わずか数年のうちに半島の大部分がその支配下に入った。( 4 )年には、アッバース朝に滅ぼされたウマイヤ家の一族によって、( 5 )を首都に後ウマイヤ朝が成立する。その最盛期をもたらしたのは929年にカリフを称した( 6 )で、時のビザンツ皇帝やドイツ王<sup>(G)</sup>にも使節を送り、学芸も大いに奨励した。

後ウマイヤ朝が( 7 )年に崩壊した後、イベリア半島のイスラーム勢力は群

雄割拠状態に入った。半島北部のキリスト教勢力が8世紀から展開してきた国土<sup>(H)</sup>  
回復運動が本格化したのは、この時期である。かつての西ゴート王国の首都がキ  
 リスト教徒によって奪還されると、半島南部の群小イスラーム諸国は北アフリカ  
 に成立していた( 8 )に助けを求めた。この王朝はイベリア半島に進出し、数  
 年のうちにこれらの群小勢力を支配下におさめたが、キリスト教諸国の優勢をく  
 つがえすには至らず、1147年には同じベルベル人の別の王朝に滅ぼされた。イベ  
 リア半島最後のイスラーム王朝は、<sup>(I)</sup>( 9 )を都としてわずかな地域を支配した  
 が、1492年に「カトリック両王」と呼ばれる2人の王<sup>(J)</sup>によって滅ぼされ、これを  
 もって半島におけるイスラーム政権は消滅した。

問1 空欄(1～9)に入るもっとも適切な語を、選択肢(a～e)から1つ選びな  
 さい。

- (1) a ヴォルガ川    b ドナウ川    c ライン川    d エルベ川  
 e エプロ川
- (2) a アラリック    b オドアケル    c テオドリック  
 d アッティラ    e エグバート
- (3) a トレド    b マドリード    c サラゴサ    d レオン  
 e セゴビア
- (4) a 750    b 756    c 759    d 786    e 789
- (5) a セビリャ    b カデイス    c グラナダ    d コルドバ  
 e タラゴナ
- (6) a アブド=アッラフマーン3世    b アブド=アッラフマーン1世  
 c アル=マンスール    d ハールーン=アッラシード  
 e アブド=アルマリク
- (7) a 1031    b 1052    c 1063    d 1071    e 1077
- (8) a ファーティマ朝    b ムワッヒド朝    c ムラービト朝  
 d イドリース朝    e アイユーブ朝
- (9) a マラケシュ    b セウタ    c マラガ    d セビリャ  
 e グラナダ

問2 下線部(A)のゲルマン人に関する以下の文(a～e)のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- a 西ゴート人と東ゴート人はいずれも西ゲルマンの一派である。
- b 西ゴート人はカタラウヌムの戦いに参戦した。
- c ヴァンダル人の王国は、東ゴート人に滅ぼされた。
- d 西ローマ帝国を滅ぼしたオドアケルの王国は、後にブルグンド人に倒された。
- e ランゴバルド人は7世紀初頭に北イタリアに建国した。

問3 下線部(B)について、西ゴート人と同じく5世紀にイベリア半島に侵入したものを、選択肢(a～e)から1つ選びなさい。

- a フン人                      b ヴァンダル人              c マジャール人
- d アヴァール人              e 東ゴート人

問4 下線部(C)について、フランク人を統一したこの王とは誰か。選択肢(a～e)から1つ選びなさい。

- a ピピン                      b カール＝マルテル              c クローヴィス
- d カール大帝              e クロタール1世

問5 下線部(D)出身で、五賢帝の1人に数えられる皇帝は誰か。選択肢(a～e)から1つ選びなさい。

- a アントニヌス＝ピウス              b トラヤヌス              c カラカラ
- d ネルウァ                      e デイオクレティアヌス

問6 下線部(D)出身のストア派の哲学者は誰か。選択肢(a～e)から1つ選びなさい。

- a プリニウス              b オウイディウス              c セネカ
- d ストラボン              e エウセビオス

問7 下線部(E)の皇帝とその隨身<sup>ずいじん</sup>たちの像が刻まれた6世紀のモザイク画があるのはどこか。選択肢(a～e)から1つ選びなさい。

- a ローマ      b イスタンブル      c アテネ      d ラヴェンナ  
e ヴェネツィア

問8 下線部(F)が異端とされたのはどの公会議においてか。選択肢(a～e)から1つ選びなさい。

- a カルケドン公会議                      b エフェソス公会議  
c コンスタンティノーブル公会議      d ニケーア公会議  
e ラテラノ公会議

問9 下線部(G)のドイツ王は後に教皇ヨハネス12世から帝冠を受けたが、これは誰のことか。選択肢(a～e)から1つ選びなさい。

- a カール大帝              b ハインリヒ1世      c オットー1世  
d ハインリヒ4世      e フリードリヒ2世

問10 下線部(H)の過程でポルトガルがカステリヤから分離・独立したのはいつのことか。選択肢(a～e)から1つ選びなさい。

- a 1085年      b 1143年      c 1183年      d 1212年      e 1236年

問11 下線部(I)の王朝に仕えたコルドバ生まれの哲学者は誰か。選択肢(a～e)から1つ選びなさい。

- a イブン=パットウータ      b イブン=ハルドゥーン  
c イブン=ハズム              d イブン=ルシュド  
e イブン=トゥーマルト



問12 下線部(J)の2人の王とは誰か。正しい組み合わせを選択肢(a～e)から1つ選びなさい。

- a カステイリヤ女王イサベルとアラゴン王フェルナンド
- b カステイリヤ女王イサベルとポルトガル王ジョアン
- c カステイリヤ女王イサベルとナバラ王エンリケ
- d カステイリヤ女王フアナとポルトガル王ジョアン
- e カステイリヤ女王フアナとアラゴン王フェルナンド

問13 下線部(J)の2人の孫で、1516年にスペイン王となったのは誰か。選択肢(a～e)から1つ選びなさい。

- a フェリペ1世    b フェリペ2世    c カルロス1世
- d カルロス2世    e マクシミリアン1世

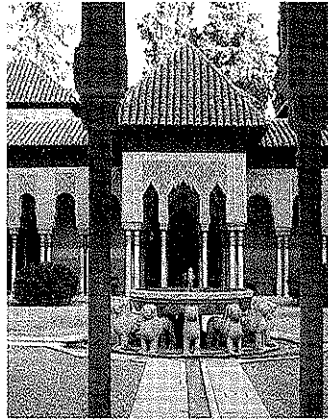
問14 次の(1)～(4)ともっとも関係が深いものを、写真(a～h)から1つずつ選びなさい。

- (1) 下線部(E)の東ローマ皇帝
- (2) 後ウマイヤ朝
- (3) 空欄3の都市
- (4) イベリア半島最後のイスラーム王朝

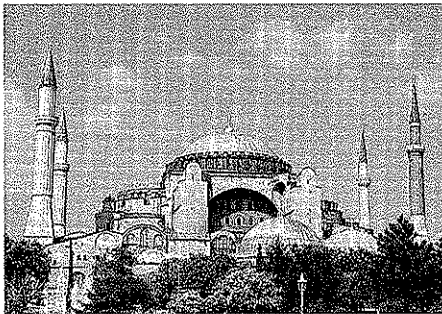
a



b



c



d



e



f



g



h



4 次の文章を読んで、下の問(1~16)に答えなさい。

オランダとベルギーは統合ヨーロッパの象徴といっても過言ではない。両国とも第二次世界大戦後に西ヨーロッパで組織された国際機関<sup>(ア)</sup>にしばしば名を連ねた。ヨーロッパ連合(EU)を発足させた条約はオランダの( 1 )で調印されたし、ヨーロッパ連合の主要機関はベルギーの( 2 )に置かれている。だが、この二つの国の歴史は決して安定したものではなかった。

海抜の低さから低地地方(ネーデルラント)とも呼ばれるこの地域は、中世から近世にかけてヨーロッパ屈指の経済的・文化的先進地であった。イギリスとフラ

ンスの間で起こった百年戦争も、その一端は、遠隔地商業や( 3 )の生産で繁栄していたこの地域をめぐり両国が勢力争いを繰り広げたことにあった。イタリアで始まったルネサンスはネーデルラントにも伝播し、優れた画家や音楽家が出た。

政治的には、ネーデルラントはブルゴーニュ家ついでハプスブルク家の支配を受け、16世紀に後者が二分した際には、スペイン=ハプスブルク家の領地となった。カルヴァン派プロテスタントが多かったこの地域に対し、スペイン王( 4 )はカトリック寄りの政策を推し進めようとしたため、貴族を中心にスペイン支配への反発が起こり、独立への動きに発展した。

独立してオランダとなったネーデルラント北部は、高度な造船技術によってバルト海貿易を掌握し、さらにはヨーロッパ以外の地域との貿易にも乗り出して、繁栄を謳歌した。イギリスは、三度にわたる英蘭戦争などを経てそのオランダを凌駕するようになり、18世紀半ばにはフランスとの七年戦争にも勝利して、世界の覇権国への道を歩む。一方、スペインの支配下にとどまったネーデルラント南部では、フランスが進出の機会をうかがい、17世紀後半にはスペインやオランダと戦火を交えた。

フランス革命はこの地域にも甚大な影響を及ぼした。オランダでは革命フランス寄りのバタヴィア(バターフ)共和国が成立したが、ナポレオンはオランダの独立を奪いフランスに併合した。それと相前後して南ネーデルラントもフランスに併合された。ナポレオンが失脚するとオランダは独立を回復し、同時に南ネーデルラントを支配下に取めた。こうして統一国家となったネーデルラントであるが、北部が南部を支配するという構図が明白であった。不満を抱く南部は、( 5 )をきっかけに北部と袂を分かち、ベルギー王国となった。

これ以後、オランダとベルギーはそれぞれ独立国として今日に至っている。もともと、ドイツとフランスという二大国に挟まれているため、世界大戦には巻き込まれざるをえなかった。また、遠隔地商業で繁栄したオランダはいうまでもなく、ベルギーも植民地獲得には熱心であった。「大国に翻弄される小国」にも思える両国も、疑いなくヨーロッパ列強の一角をなしていたのである。

問1 文章中の空欄(1～5)に入る語としてもっとも適切なものを、それぞれの選択肢(a～d)から1つ選びなさい。

- (1) a シェンゲン    b マーストリヒト    c リスボン  
d オスロ
- (2) a ストラスブール    b ヘント    c アントウェルペン  
d ブリュッセル
- (3) a 砂糖    b 綿織物    c 毛織物    d コーヒー
- (4) a フェリペ2世    b カール4世    c イサベル  
d ジョアン2世
- (5) a フランス二月革命    b フランス七月革命  
c パリ＝コミューン    d スペイン継承戦争

問2 下線部(ア)について、第二次世界大戦後のヨーロッパ統合をめぐる出来事が年代順に正しく並べられているものを、次の選択肢(a～d)から1つ選びなさい。

- a シューマン＝プランの発表 → ヨーロッパ石炭鉄鋼共同体の結成 → ヨーロッパ経済共同体の結成 → ヨーロッパ自由貿易連合の結成
- b ヨーロッパ石炭鉄鋼共同体の結成 → ヨーロッパ経済共同体の結成 → シューマン＝プランの発表 → ヨーロッパ自由貿易連合の結成
- c シューマン＝プランの発表 → ヨーロッパ経済共同体の結成 → ヨーロッパ石炭鉄鋼共同体の結成 → ヨーロッパ自由貿易連合の結成
- d シューマン＝プランの発表 → ヨーロッパ石炭鉄鋼共同体の結成 → ヨーロッパ自由貿易連合の結成 → ヨーロッパ経済共同体の結成

問3 下線部(イ)の戦争について述べた文としてもっとも適切なものを、次の選択肢(a～d)から1つ選びなさい。

- a イギリス国王ヘンリー7世がフランス王位継承権を主張した。
- b ジャンヌ＝ダルクはクレシーの戦いでイギリス軍を破った。
- c この戦争が終結した後、ワット＝タイラーの乱が起こった。
- d この戦争によってフランスの中央集権化が進んだ。

問4 下線部(ウ)の地域でのルネサンスについて述べた文として誤っているものを、次の選択肢(a～d)から1つ選びなさい。

- a セルバンテスは『ドン＝キホーテ』を著した。
- b エラスムスは『愚神札賛』を著した。
- c ファン＝アイク兄弟はヘントの祭壇画を描いた。
- d ブリュエゲルは農民の日常生活を描いた。

問5 下線部(エ)について、オランダのカルヴァン派の呼び名として正しいものを、次の選択肢(a～d)から1つ選びなさい。

- a ユグノー
- b ゴイセン
- c ピューリタン
- d プレスビテリアン

問6 下線部(オ)について、オランダ独立をめぐる出来事が年代順に正しく並べられているものを、次の選択肢(a～d)から1つ選びなさい。

- a ネーデルラント連邦共和国独立の宣言 → ユトレヒト同盟結成 → スペイン無敵艦隊、イギリスに敗北 → ウェストファリア条約締結
- b スペイン無敵艦隊、イギリスに敗北 → ユトレヒト同盟結成 → ネーデルラント連邦共和国独立の宣言 → ウェストファリア条約締結
- c スペイン無敵艦隊、イギリスに敗北 → ネーデルラント連邦共和国独立の宣言 → ユトレヒト同盟結成 → ウェストファリア条約締結
- d ユトレヒト同盟結成 → ネーデルラント連邦共和国独立の宣言 → スペイン無敵艦隊、イギリスに敗北 → ウェストファリア条約締結

問7 下線部(カ)に関連して、北方戦争の戦勝国とその君主の組合せとして正しいものを、次の選択肢(a～d)から1つ選びなさい。

- a ロシア — ピョートル1世
- b ロシア — エカチェリーナ2世
- c スウェーデン — カール12世
- d スウェーデン — グスタフ＝アドルフ

問8 下線部(キ)の戦争について述べた文としてもっとも適切なものを、次の選択肢(a～d)から1つ選びなさい。

- a 北米ではジョージ王戦争が起こった。
- b オーストリアはプロイセンと同盟して戦った。
- c インドではブラッシーの戦いが起こった。
- d フランスはカナダとミシシッピ川以東のルイジアナを獲得した。

問9 下線部(ク)について、ナポレオンによるヨーロッパ支配をめぐる出来事が年代順に正しく並べられているものを、次の選択肢(a～d)から1つ選びなさい。

- a ナポレオン、皇帝に即位 → 第3回対仏大同盟の結成 → ライン同盟の結成 → ロシア遠征
- b 第3回対仏大同盟の結成 → ナポレオン、皇帝に即位 → ライン同盟の結成 → ロシア遠征
- c ナポレオン、皇帝に即位 → ライン同盟の結成 → 第3回対仏大同盟の結成 → ロシア遠征
- d ライン同盟の結成 → ナポレオン、皇帝に即位 → 第3回対仏大同盟の結成 → ロシア遠征

問10 下線部(ケ)について、第一次世界大戦期のオランダ・ベルギーについて述べた文として誤っているものを、次の選択肢(a～d)から1つ選びなさい。

- a オランダは中立国であった。
- b ドイツはベルギーの中立を尊重した。
- c 大戦末期、ドイツ皇帝はオランダに亡命した。
- d 大戦後、ベルギーはフランスとともにルール工業地帯を占領した。

問11 下線部(ク)について、第二次世界大戦期のオランダ・ベルギーについて述べた文の正誤の組合せとして正しいものを、下の選択肢(a～d)から1つ選びなさい。

- ア 大戦勃発時、オランダとベルギーは連合国側で参戦した。
- イ 大戦終結後に独立を宣言したインドネシアに、オランダは武力介入を行った。
- a アー正    イー正
  - b アー正    イー誤
  - c アー誤    イー正
  - d アー誤    イー誤



問12 下線部(コ)について、ベルギーの植民地として正しいものを、次の選択肢

(a～d)から1つ選びなさい。

- a コンゴ(現・コンゴ民主共和国)
- b マダガスカル
- c リビア
- d ナイジェリア

問13 17世紀半ば、台湾を占領していたオランダを駆逐した人物の名としてもっ  
とも適切なものを、次の選択肢(a～d)から1つ選びなさい。

- a 鄭成功
- b 張居正
- c 李自成
- d 呉三桂

問14 オランダの貿易や海外進出について述べた文として誤っているものを、次  
の選択肢(a～d)から1つ選びなさい。

- a グロティウスは『海洋自由論』を著した。
- b イギリスは航海法によってオランダの貿易に打撃を与えようとした。
- c イギリスはアンボイナ事件を機にオランダ勢力をインドネシアから退け  
た。
- d オランダはジャワ島のバタヴィアを拠点とした。

問15 オランダが覇権を獲得したことで国際金融の中心はどの都市からどの都市  
へと移ったのか。正しいものを次の選択肢(a～d)から1つ選びなさい。

- a アムステルダムからアントウェルペンへ
- b アントウェルペンからヴェネツィアへ
- c ロンドンからアムステルダムへ
- d アントウェルペンからアムステルダムへ

問16 オランダ総督ウィレム3世がイギリス王として即位するにあたり受け入れた議会文書の名としてもっとも適切なものを、次の選択肢(a～d)から1つ選びなさい。

- a 権利の宣言
- b 権利の請願
- c 人権宣言
- d 独立宣言



